子どもたちの創造性・可能性を引き出す

～６次産業体験学習（林業プロジェクト）への挑戦～

萩市立福栄小中学校

はじめに

萩市福栄地域は、山口県の北西部に位置し、日本海沿岸より約４km 内陸部の中山間地帯である。

本校は平成 28 年度に３つの学校（小学校２・中学校１）が統合し、地域や保護者の思いや願いによって誕生した県下初の小中一貫教育校である。全児童生徒は小学部 39 名、中学部 21 名の小規模校であり、校区は広く、児童生徒の多くがスクールバス登校である。地域の方々はとても学校に協力的であり、学校支援に労を惜しまず積極的に関わり、子どもたちを温かく見守ってくださっている。福栄地域の主な産業は、農業や林業、畜産業といった第一次産業であるが、年々人口減少が続き、後継者不足が深刻な問題となっている。

１　福栄小中学校の３つの目標

本校では学校経営の柱として、下記の３つの目標を掲げている。

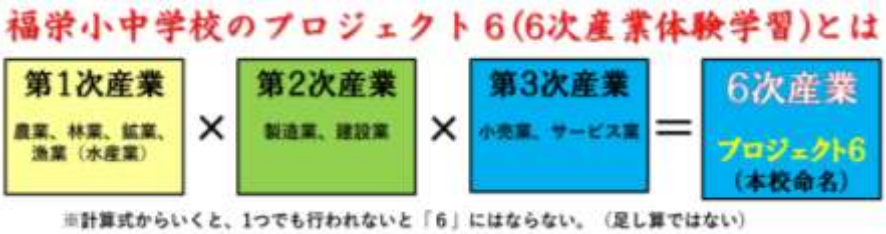
学校教育目標	「ふるさと福栄」に思いを寄せ、志を抱き、未来を切り拓く力を身に付けた児童生徒の育成
学校経営目標	福栄小中学校と福栄地域の持続可能性を高める学校経営
地域連携目標	「かかわりたい」の創造

どの目標も「学校と地域との連携」の基盤をなすものである。小中一貫教育校として、開校当初から教職員一同、九年間の義務教育を小学校と中学校が連携し、子どもたちの学びと育ちを見守ること、さらに、学校運営協議会や地域協育ネットでは、子どもたちの健全な育成に向けて学校と地域が連携することを共通理解している。開校から６年目、今年度も子どもたちのための学校支援、地域のための地域貢献等、様々な取組が進められている。

２　本校の特色ある取組とその成果について

本校の特色ある取組として「ふくえ学習」があげられる。その目的は、ふるさと福栄の「ひと・もの・こと」を活用し、９年間を見通して、ふるさと福栄に学び、福栄を生かすことである。代表的な学習として、プロジェクト６（６次産業体験学習）があげられる。

（１）プロジェクト６（６次産業体験学習）とは



第１次産業（農業・林業・漁業等）から第２次産業（製造・建設）、第３次産業（販売、サービス）までの一連の取組を６次産業といい、本校では、この６次産業の体験学習を「プロジェクト６」と命名、小中一貫教育校としての強みを生かし、地域住民並びに地域内事業所、各種団体の方々の惜しみない学校支援のもと、子どもたちの創造性・可能性を引き出し、未来を切り拓く力を身につけさせる学習として、全校体制で取り組んでいる。

（２）これまでの取組（もち米プロジェクト）

①小学部児童によるもち米づくりと農家の方とのふれあい

○もみまき→田植え→稲刈り→脱穀の一連の作業行程を農家の方々のアドバイスを受けながら小学部児童が一緒に活動する。

○小学部の児童が第一次産業に携わる農家の方々の思いや願いをインタビューして情報を収集する。

②小学部と中学部の情報共有

○農家の方々へインタビューから収集した情報を中学部の生徒へ伝える。

○中学部では情報を共有し、もち米を使った商品開発をすすめていく

③中学部２年による商品開発として

○商品開発の進め方について

・山口大学知財センターの先生による商品開発の進め方や商標権などの知的財産に関する学習

○もち米の調理例や食品表示に関する学習

・家庭科教員や元イタリアンシェフ、パン職人が連携した商品開発

・地域内にある事業所「福の里企業組合」の協力により、商品の試作に取り組む。

○パッケージデザイン

・美術科教員によるラベル等のデザイン学習の授業

○販売について（分量・価格）

・地元の萩商工高校教員による販売価格についての学習

※多くの個人や団体、関係機関から協力をいただいた。

④中学部２年による店舗経営・販売体験

・地域ふるさとまつりで行った店舗経営、販売体験では「売り切った」という達成感、自分たちの力で新たな価値を創造する楽しさを味わう。

⑤学習成果発表「奥萩ブランド」（萩・阿武商工会主催）

・これまでに取り組んできた学習成果をプレゼンにて紹介。その取組が評価され、主催者より表彰、商品は商品登録認定された。

（３）児童生徒の感想

○農家の方のお米作りの大変さ、楽しみ、工夫を学ぶことができました。(小５)
○米作りをとおして、何事にも前向きに取り組みことを学びました。(小６)
○６次産業体験学習では商品作りから販売までの過程を行い、いろいろなことを考えることができ、達成感を味わうことができました。楽しかったです。(中２)
○働くことは責任をもつことだと思いました。お菓子の販売では全て売れれば終わりではなく、買う人に魅力を伝えることも働くことの一つだと思いました。(中２)

小中一貫教育校として小学部と中学部の教育課程の中に、第一次産業から第三次産業までの体験学習を位置づけ、学校体制で取り組んだことは、児童生徒の感想からもわかるように大きな自己肯定感につながった。

３　新たな取組について（林業プロジェクト）

（１）ふるさと福栄に思いを寄せ、地域を生かす学習

福栄地域は山々に囲まれ自然豊かである。地域内には阿武萩森林組合や山口県森林組合があり、林業（第一次産業）のさかんであった。時代の流れとともに林業はきびしい現状である。

林業という地域の財産を考えたとき、「ふくえ学習」の目的にある「ふるさと福栄に学び、福栄を生かす学習」に合致する題材であり、プロジェクト６（林業プロジェクト）として位置づけた。

（２）これまでの取組

この学習は中学部の教育課程「総合的な学習の時間」に位置づけた。当初、令和２年度よりスタートする計画であったが、コロナ禍で予定していた活動ができなかったため、意識・意欲づけ、基盤づくりを図ることに主とした学習内容に取り組んだ。

①林業の実際

・国内（福栄地域も含む）の林業についての現状（担い手不足、需要減少など）を学んだり、林業に関わる人々の思いを知ったりすることで、林業への興味・関心を高める。

②木製品の製作

・身の回りには、木材でつくられたものが多くある。木材の特徴を生かしながら製作されている木製品を知るとともに、実際に木材に触れ、生活に役立つ木製品を製作する。

③森林観察（現地視察）

・地域の森林、林業について理解を深める。木の役割・価値について考える。林業に携わっている方の苦労や喜びについて情報収集する。（キャリア教育）実際に枝打ち体験を体験する。

④古民家見学

・リノベーションされた古民家の見学をとおして、木材が生活の中で有効活用されていることに気づく。木をテーマにしたディスカッションにより、自分の考えをまとめる。

令和３年度からは、前年度の取組を基盤に、本格的に「林業プロジェクト」として学習を進めた。

この学習では、萩市林政課や事業所「萩・森倫館」、福栄地域にある阿武萩森林組合、東京を拠点とする事業所「トビムシ」のスタッフにもご協力いただきながら進められている。学校と各事業所が連携しながらの取組は、とても心強く、頼もしい限りである。これから小中一貫教育校の特色ある取組の一つとして全教員も生徒とともに学習していかなければと考える。

左の写真は令和３年度当初、これからの進める方向性について確認するスタッフ会議の様子である。会議では東京や熊本をつないでのリモート会議も取り入れ、活発な意見交換を行った。

（３）林業プロジェクトの目的・学習年間計画

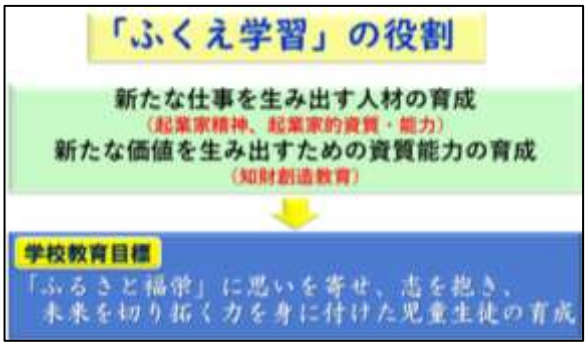
【目　的】
各事業所と連携しながら、林業６次化の取組により、
①地域資源への興味・関心をもたせ、地域資源の価値について考える。
②ビジネスのおもしろさを体験する中で、自分の考えを伝える力を身につける。

【年間計画】
１年目・・・林業の基礎知識、森林の現状、林業６次化の取組についての学習、調査
生活の中にある身近な木製品の役割、簡単な木製品の製作、枝打ち体験、
古民家訪問（伝統的な木造建築見学）
２年目・・・テーマの設定、木材を使った商品開発、商品試作、付加価値について　等
３年目・・・地域内施設等を利用し会場施工体験、３年間の取組発表内容検討＆発表、
地域 PR＆他地域への提案(プレゼン等)資料作成

４　成果と今後の取組

【成　果】
○「ふくえ学習」では、子どもたちの生き生きとした姿を見ることができ、子どもたちの創造性・可能性を引き出すことができる学習である。
○地域資源である「ひと・もの・こと」を活用することにより、地域と学校の連携につながるとともに、子どもたちを地域全体で見守っていただくことにつながっている。

【課　題】
○本校の特色ある取組として、全教職員が関わりながら定着させていかなければならない。
○「ふくえ学習」は、これからの未来を切り拓いていく子どもたちに必要な力をつけていく学習であることを各家庭にもしっかりと情報発信し、理解していただくとともに協力体制を構築していかなければならない。

おわりに

「ふくえ学習」は、右図のように、本校の学校教育目標（「キャリア教育」につながる）達成に近づく取組として、全校体制で計画的に進め、充実させていきたい。そして、この取組がこれからの時代を生きていく子どもたちの創造性と可能性を引き出す一助となることを願っている。また、「ふくえ学習」をとおして、子どもたちの元気を地域に発信、地域の活性化を図りたい。教職員も「地域とともにある学校」の一翼を担っているという自覚をもち、さらなる地域理解を努めていきたい。